

2018年(平成30年)5月17日(木曜日)

【衆院経済産業委】

## エネ政策、ドイツに学ぶべき

富田 茂之氏(公明・比例南関東)

富田議員は「再生可能エネルギーの普及には、地域の実情に合った仕組み作りが欠かせない」とし、電力事業を軸に地域ソーシャルビジネスを展開するドイツ・シュタットベルケのビジネスモデルに学ぶべき点が多いと主張した。

## 経産省「新たなモデル推進」

富田議員は、シュタットベルケの特徴として①自治体が出資②特定地域に事業活動が特化③分散型電源を積極活用と紹介。電力調達問題など日本で同モデルを適用した場合の課題、日本版先行事例「みやまスマートエネルギー」(福岡県)も詳しく解説した。大串正樹経済産業大臣政務官は「シュタットベルケのような地域の会社が地域で電気をつくり、地域で使っていくのは重要。こころした新たなモデルを推進したい」と答えた。